

## “社長から課長までの使い方”

私は「マウス」である。

「ファイルすぐでる！」は、あつと言う間に広がったようだ。  
いろいろなユーザからの声が聞こえている。私は、「ファイルすぐでる！」のお陰で余裕ができたから、あらためて「ファイルすぐでる！」の本質を考えてみた。

## ”これは便利と社長も仲間入り”

向かいのビルの社長は、「ファイルすぐでる！」の利用に首を傾げていたが、最近はいやに、にこにこして、「あれいいね」と言っているらしい。

「こんにちは、社長。いやに機嫌がいいじゃないですか」

「マウス君か。あれは、君が言っていたやつは、何て言ったかな。なかなかいい、ほっほっほ」

「あれって、『ファイルすぐでる！』ですね」

「そうそう、それだよ。やってみたら便利だよ。簡単にできるしね」

「社長がやってみたんですか」

「そう。部長が勝手に入れたのが始まりだ」

私は、横に付き添っていた部長に向かって、話しかけた。

「部長、やっと実現しましたね。おめでとうございます」

「あれだけ嫌がっていたんですが、使ってみたらガラッと変わられてしまいました」

「どうやって口説いたんですか」

「社長が暇なところを見計らって、今できた業績データをすぐに見たくないですかと声をかけたんです」

「マウス君、部長には、紙で報告してくれと言ったんだが、今後も楽になるからというんで・・・、騙されたつもりで見ていたんだよ」

「すぐに『ファイルすぐでる！』を導入しました。あつという間に入るから、社長の口癖の『遅い』と言われずに済みました」

「社長のあの口癖ね。『遅い』がなくて第一段階が合格したわけですね」

「遅かったら、やっくらんわな」

私は、「それからどうなったんですか」と聞いた。

「とりあえず、業績データがパッと出たから、なんか騙されたような感じだった」

「裏技も使ったようですね。ねえ、部長」

「当然ですよ。社長にはスピード勝負でやりました」

「なんか、データを外部入力で読み込んだわ。それに見とれ取ったから時間は忘れとった」

「ファイルマップとサーバデータの外部入力ですか。それはうまくやりましたね」

「今後もこういう使い方でないと、社長はいらいらすると思います」

社長は、満足そうな顔をして言った。

「私は、面倒なことをしなくて済むのが気に入ったよ」

「やっぱりね。ファイルの置き場所は、一番ややこしいですから。それが見えるようになったデータから始めたから、簡単という感じなんですね」

「いや、他にも探して見ると、いろいろなデータがあることもわかった。こんなに簡単なのかと感心したよ」

「えっ？ 少し自分でもファイルマップを操作しているんですね。第2段階も合格ですか」

「ある程度ファイルマップというやつができてから分かりやすいんだな。最初からはできん。でも、今は多少できるかな。何か楽しくなった気がする」

「社長、新しいファイルマップは、その都度社長のパソコンに入れさせていただきます」

「そうそう、社長には、断られるまではやってあげないとね」

「それでいい。しばらくは頼むわ」

私は、社長が少し操作しているようなので他にも聞いてみたくなった。

「それで、社長。どのように便利と感じているのですか」

「あれは、何もせんでも立ち上がってくるがな」

「自動立ち上げが、特に気に入っているようです」

「なるほど」

「それで、見たいファイルが目の前に表示されとる。実にわかりやすい」

「すぐにファイル名をクリックすることで、最新の情報が見れるというわけですね」

「そこが便利になったんだよ。メールで貰うと整理が大変だ。最新版が分からん。ここに置いてあるのに一々メールで送るのは無駄と違うんか。なあ、部長！」

「社長のおっしゃるとおりです。『ファイルすぐでる！』になって劇的にやり方が変わったんです」

「部長、ちょっと全社的にファイルの管理を考え直したらどうだ。無駄が多すぎるわ。一元管理にしないと、あちこちに同じデータを置いとったら、保管資源が無駄になっるとるんと違うか」

私は、社長に感心してしまった。

「社長のご指摘、よく理解されていますね。すごい進歩ですね。もう、『ファイルすぐでる！派』になっていますね」

『ファイルすぐでる！派』の意味はクリック数を減らすことだろ。私はクリックはしない方がありがたい。私に報告するのは、『今更新した』だけでいいんだ。メールの操作無しでファイルを見ることができる。報告する方も手間を省けるんじゃないかね」

「そういう効果もありますね。『ファイルすぐでる！』を導入した後で、仕事のやり方を改善するというのはいいですね」

「私は思うんだ。投資というのは、何らかの目に見える改善ができないといかん」

私は、社長の建設的な考え方にますます『ファイルすぐでる！』の可能性の大きさを感じた。

「はい、社長。そうなんです。気がつきませんでした。『ファイルすぐでる！』は、本人の作業が快適になることを目指していると思っていました」

「快適というあいまいな言葉では、投資効果を評価できないのだ」

「いえ、裏にはクリック作業を軽減することで無駄な時間を排除することができるという基本的な理念があるのです」

「それもいいかもしれん。しかし、経営的には前向きな効果が評価しやすい」

「じゃあ、社長。『情報伝達がスピーディになる』とか『トップに情報直結』とかですかね」

「全社情報一元化じゃよ」

「そこまで言い切るのはすばらしい。共有サーバの効果が絶大になりますね」

「サーバも集約することが経費節減になっとるし、その上で利用効果も各部門だけでなく、全社的な効果を大きくしないと」

「なるほど」

ここで、部長が導入の方針を確認した。

「社長、では、『ファイルすぐでる！』を全社で導入ということよろしいでしょうか」

「何？ まだ入れていなかったんか。はよやれ！『遅い』！」

## ”「ファイルすぐでる！」の総務係の感想”

社長は、お年の割によく理解できたものだ。今度は、若手の総務の女性に聞いてみようか。勝手知ったる私だから、すいすい総務課に入ってしまった。

「忙しそうだね」

「あら久しぶり。そうよ、邪魔しないでね」

「あなたの気について『ファイルすぐでる！』について、ちょっとお聞きしたいことがあるんですよ。少し休憩しませんか」

「マウス君も使っているの？」

「当然ですよ。私はあなたとお仲間です」

「じゃあ、少しだけよ」

「ありがとう。『ファイルすぐでる！』を使い始めてどれほど経ったかな？」

「初めから使っているから、もう1ヶ月ほどになるわ」

「では、もう十分『ファイルすぐでる！派』ですね」

「そうよ。もうすっかり馴染んでしまって、前の様子を忘れてしまうくらい」

それは、すごい変わりようだ。よほど気に入っているのだ。

「そんなに使い込んでしまったんですね」

「もう、『ファイルすぐでる！』で始まって、『ファイルすぐでる！』で終わる毎日よ」

「それは、すごい。どこが便利と思っているの」

「どこがって、『ファイルすぐでる！』は、ファイルマップの機能しかないのよ。サーバ登録やファイルマップの登録は、付属機能だから、他に機能と言えるものは履歴検索ぐらいかな」

「確かに基本はそうですね。じゃあ、総務の仕事では、具体的にはどんな使い方しているの」

「私の仕事は、とにかく業務の種類が多いことが特徴なのよ」

「種類が多いと当然取り扱うファイルも多いということになるのかな」

「私はね、ファイルという単位で考えるのではなく、ファイルマップを業務単位で使う考え方をしているの。これを今までならフォルダに名前を付けてファイルを管理していたでしょ」

「上位のフォルダをファイルマップに対応させるということか」

「大きくは対応しているけど、それだけだったらあまり便利にならない。ファイルマップは、他のフォルダにも置いてある必要なファイルと合わせてグループ化できるから、全体として業務単位に整理できるのよ」

「ファイルマップのメニューは、業務単位に名前が作られるわけか」

「フォルダは、サーバの中にあるから、そこでは業務の名前という感じがしにくいし、通常は見えないから業務を整理していることにならないでしょ」

「『ファイルすぐでる！』は、業務名が並んで表示されるから、業務単位にファイルを見に行くことができる」

「そういうことよ。業務の切り替えは、ファイルマップの選択でできるから、切り替えた時にそこに表示されたファイルを見れば、これから行うべき作業が見えてくるでしょ。こ

こが根本的に変わったこと」

「今までは、ファイル単位に考えていたんだね」

「業務単位に全体が見えれば、資料の過不足も判断しやすくなるように感じる。それに、常時使用するファイルは選択してファイルマップに『表示』したり、使わなくなれば『非表示』にできる。フォルダに含まれるファイルは、サブ画面にすべて表示されているから、見比べられるから便利よ」

ここで、少し私の知識をちらつかせてみた。

「ところで、ファイルマップは、ショートカット集のイメージから生まれてきたことを知っている？」

「ええっ！ ショートカットって聞いて驚いたわ。全然そんな感じはしない。でも、必要なファイルを束ねるといことでは、そういう発想が元にあるってわけね」

「必要なファイルを集めるのではなく、サーバの中から選択して構成できるようにしたのさ。ファイルのパスが見える状態のツリー構造だから、所在が明確にわかる」

「私は、さっき言ったように業務毎にファイルマップを登録するから、全体がショートカットで構成されていることになる。業務毎にファイルマップの名前をつけて、それぞれのファイルが使いやすいように構成しているんだな。ほんとにマップの数が多くなってしまった」

「画面に表示しきれないぐらい？」

「とても表示しきれない。だから、マップは3段ぐらいに表示されている」

「それで、毎日すべての業務のファイルを見ているの」

「それに近い状態よ。中身は見なくても名前をさらっと見ることも簡単にできる。定期的に作業を行うものが多いよね。締切日の作業別に整理している場合もあるわ」

「すごい激しい仕事ぶりだなあ。ありがとうございました」

「まだまだ、もうひとつ聞いてよ」

「まだあるんですか？」

「大事なことよ。総務の仕事は私だけしかやっていないの」

「それは大変ですね。休暇も取れないんじゃないですか」

「言いたいことはそれですよ。『ファイルすぐでる！』のお陰で心配がないのよ。私が休んでも誰も困らないの」

「本当ですか？『ファイルすぐでる！』が役に立つのかな？」

「そうよ。私、ファイルを分かりやすく分類しているでしょ。だから、私のマップを見れば、欲しいファイルの所在がすぐわかるわけ。私は、休む前にマップデータをサーバに出力して、最新状態に置き換えるだけよ。必要な人は、それを参照すれば、ファイルを見出すのは簡単よ」

「さすがですね。他にも応用できるお話ですね。ありがとうございました」  
う～ん。「ファイルすぐでる！」は、彼女にとって手放せないツールになっている。

## ” 敏腕課長のファイルマップの活用”

どうしても聞きたい人がいる。あの敏腕課長はどう活用しているのだろうか。  
確か、部下15名と使っていると言っていた。

### ■組織のメンバーに導入

「こんにちは。皆さんの『ファイルすぐでる！』の評価はいかがでしたか」  
「部下に使わせるにはちょっと工夫が必要でした。興味がない部下もおりますから」  
「組織的には、全員で使用することが大きな効果をあげますよね」  
「一人ひとりに効果がありますが、私は課全体の業務を効率化したい思っていましたから、全員に『ファイルすぐでる！』を使ってもらわないことには、それが実現しません」  
「いろいろな方がいますけど、課長が一言『使ってくれ』と言えば、皆さん使用されるのではないのでしょうか」  
「いやいや、部下への押し付けはいけません。本当に便利だと思わないと効果はありません。『お願いします』と頭を下げて頼みました」

慎重に導入を推進する敏腕課長の結果が気になった。

「ええっ、そんな風にされたのですか。いつもの調子と違いますね。それで、どんな反応だったのですか」  
「まず、『ファイルすぐでる！』のホームページに掲載されている説明漫談や事例漫談を読んでもくれとお願いしたわけです。その方が、説明が簡単です」  
「すぐに導入しなかったのですね。皆さん、読んでいただけましたでしょうか」  
「『ファイルすぐでる！』をすぐに使うよりはハードルが低いからね。ほとんどの人が読みました。あの文章は難しくないから、あまり時間はかかりませんでした。なかなかおもしろいと感想を言ってきたものもいました」  
「かなり好感度がよかったですね」  
「たくさん事例漫談があるから、『あれは、多すぎる。読む時間が無駄になってしまった』と『ファイルすぐでる！』の説明の無駄を指摘してきた部下もいましたよ」

「時間の無駄を指摘されたら、返す言葉がありませんね」

「そうかもしれません。私は忙しかったけど全部読ませてもらいました」

『ファイルすぐでる！』は無駄な作業を削減する目的で使用するのに、情報過多になってはいけません」

「どうせマニュアルを読まないといけないんだから、そんなに無駄でもないでしょう。マニュアルよりは読みやすいから」

「それで、次はどんなことをされたのですか」

「騙されたつもりになって、『ファイルすぐでる！』をインストールしてくれと、そして、私が、共有サーバのファイルについてファイルマップを作成したものを『ファイルすぐでる！』のフォルダに用意しました。そこから外部入力でマップデータを各自に導入させました」

「最初にそれをやると趣旨が伝わりやすいですね」

「これは、マニュアルには書いていないですね。自分で最初から始めると少しだけ面倒です。具体的な事例があるとすごく分かりやすい。共有サーバのファイルを表示させるとびっくりして、『ファイルすぐでる！』はなんか便利じゃないかと思うんです」

「うまく騙されてほしいですね」

「別に騙してもいいです。その気になってもらうことが大事です」

「じゃあ、課長がいつも見ているファイルを一気に公開されたことになりますね」

「私のファイルマップのすべてではないですよ。部下に伝えたいファイルマップだけを選んで保管しておきましたから。次は部下が私に伝えたいファイルのファイルマップを送ってもらうことになります」

「ファイルマップの外部出力は、マップを選択できましたね。課長は、それを実務のままのファイルマップで部下の説明に使われたのですね」

「まあ、『ファイルすぐでる！』は使えそうだと、便利そうだと思ってもらったから、後はしばらく自由に、勝手に使わせました」

「まずは、自分のために使うことが基本ですからね」

「ファイルを自分で作成すること、保存すること、マップを登録して使いこなすことなど、基本が分かってから、使用ルールを説明しようと思ったのです。このことは事例漫談を読むことで知識としては理解できているはずですよ」

『ファイルすぐでる！』の使用に慣れるまで、我慢されたわけですね」

「正直ちょっと我慢していました。でも、すぐに全員が『ファイルすぐでる！派』に変わったので、後は簡単だったですよ」

## ■活用の真髄：ファイルマップの使用ルール

これからが聞きたいことの本番だ。

「課長が考えたマップの作成ルールというのは、どんなルールですか」

「これは、企業秘密だなあ」

「そんなことを言わずに、教えて下さいよ。ねえ」

「教える、教える。秘密というほど難しいものじゃないよ。

いろいろ事例漫談にあることを実施したいと考えているけど、共通に利用するファイルマップの作り方を統一しておくことが重要だと考えている。共有化するファイルマップの作り方が混乱すると、共有作業の効率化が低下するのではないかと危惧している」

「やってみないとわからないけど、これはいい視点ですね」

「そこで、共有するファイルマップでは、マップに表示させるのはフォルダだけにするルールです」

「それはどうしてでしょうか」

「共有するフォルダの中のファイルは、表示したいかどうかは個人で異なるのではないか、また変更も多いから、ファイルの表示は個人任せにすればいいと考えているのだ」

「なるほど、Webシステムの場合にメニューを表示しておくのと同じですね」

「そうです。共通のマップとしてそこから始めることだけ守れば、自分が取込んでからは自由に変更してもいいですよ」

「自分の都合で見やすくしておくことは自由にするわけですね」

「そういうことです。それに、見せたいファイルについては、ファイルマップに表示しておいて送ると、ファイルを特定できるメリットもあります」

「なるほど、見せたいファイルを区別して示す方法ですか。これは気がつきませんでしたね。あっ！ これは企業秘密ですか」

「そんなことは、誰でも気付きますよ」

## ■課長の目標：効率的な部下とのコミュニケーション

「それで、課長のことだから、今後はどのような使い方をするのですか」

「いよいよ実務の効率化を始めたいと考えています。効率化というのは、業務をガラス張りにするということです。パソコンの中にファイルを保存することは、セキュリティ面でも問題になっているので、共有サーバにファイルを作成することになりました。これは、実は、『ファイルすぐでる！』を使用すると有り難いことにセキュリティだけの効果じゃなくなっただんですよ。せつかく共有サーバにファイルを置いて、パソコンと同様にどこにあるかわからないのでは、部下が何をしているかが分かりません」

「なかなか自主的に報告はしませんからね」

「昔、図面を描いていたころは、机が製図板でした」

「その上に図面があるから覗けば見えるというやつですね」

「CADを使用するようになってからは、見えなくなったですね」

「そうですか。そんな効果があるんですね」

「部下の作成するファイルは、私の『ファイルすぐでる！』では、個人別にファイルマップで表示しています」

「ええっ！！そこまでやっているのですか」

『ファイルすぐでる！』では、マップはプロジェクト単位という説明をしていますね。私は個人別にもマップを作成しているのです。本人がマップを使用するかどうかは別ですが、作業中のファイルを各自で一つのマップに整理してもらいます。それを外部入出力で私のマップに登録します」

「15人分ですか？」

「そうです」

「マップが賑やかになってしまいますね」

「そうですが、いつも見ているわけではありません。並び替えを利用します。あるいは、マップの非表示を使用します」

「なるほど、時々ならば気になりませんね」

「なによりも部下から資料ができましたと言われたら、それをすぐに見ることができるのです。作成途中で見るとな時間の余裕はありません。部下の資料をすぐにチェックができるということは、部下とのコミュニケーションがスピーディになるということです。できるだけ早めに連絡をしてくれたら、これはスピーディな処理となります」

「いわゆるチームプレイですね。課長と部下だけでなく、一緒に作業する仲間同士でも同様ですね」

「そういうことです。ガラス張りになった上で、もっと業務の効率を上げるために利用したいのです」

「業務の効率化に『ファイルすぐでる！』は必須と言っても過言ではありませんね」

「そうですよ。これはいい話でしょう。もっと『ファイルすぐでる！』のPRに使ってはどうか。『ファイルすぐでる！』は、組織力の強化に役立ちます。当社は、もう差別化できていますよ」

「凄いですね。この利用方法は、課長、いや敏腕課長ならではの利用方法かもしれませんよ」

「日本全体の企業が『ファイルすぐでる！』で強化されると、世界との競争でも優位になります。

「そうなるといいですね。頑張ってください」